

本会記事

12th International Conference on Ferrites (ICF12) 会議報告

International Conference on Ferrites (ICF) は1970年に第1回が開催されて今回で第12回となります。今回は米国ボストンで、Northeastern大学のVince Harris教授をGeneral Chairとして、10月29日から11月1日まで開催されました。2013年に沖縄で開催されたICF11から6年を経ての開催となりましたが、計画されていたインドでのICF12を断念した後、Harris教授の申し出によりボストンでの開催にこぎつけました。1年半程度での準備期間では短いという意見がありましたが、まずは皆様の記憶を呼び覚ますためにも今年のうち開催することが必要と考え、Harris教授のグループとインターネット会議を重ねて企画を進めました。フェライトとそれに関連する、すべてOralの講演を一つの会場で通して聞ける機会とするために、毎日朝8時の開始で、遅い日は18時過ぎまで、昼食と夕方のカクテルタイム以外はフェライト漬けとなりました。そのため、例年よりやや短めの講演時間となりましたことは講演者の皆様に申し訳なく思っています。

会場はボストン・ローガン国際空港近くの海沿いにあるHyatt Regency Boston Harborで、ランチなど食事の会場からは湾の向こうにダウンタウンのビル群がみえる素晴らしいホテルでした。ホテル前から湾を渡るWater Taxiでダウンタウンまで行ける便利な場所でした。ダウンタウンまでの時間が短いので船酔いする前に到着するという触れ込みでしたが、天気があまりよくなかったので海は結構荒れていました。

初日はRegistrationとWelcome Receptionの後に、General ChairのHarris教授のご挨拶があり、東京大学・齊藤英治教授のフェライトとスピントロニクスに関するPlenary Lectureが行われました。その後もやや飲み過ぎましたが、2日目から朝8時開始のフェライト漬けの講演会が3日間続きました。政治的な影響で中国とロシアからの研究者にビザがおりないために多くの方が希望しても参加できないなどの問題もありましたが、10か国以上から100名強の参加者があり講演件数は、72件でした。日米からの参加者が全体の60%程度で、日本からも多くの参加者が集まりましたことに対し、関係の皆様に変感謝しております。6年ぶりの開催ということで企業の方など久しぶりにフェライト関係者の皆様にお目にかかることができ、懐かしく思ってくださいる方も多く、大変意義のある学会になったと考えています。準備期間が短く、もっと参加者を増やすことができたのではと後悔もありますが、今後のために開催することができたこと、海外からも多くのフェライト関係者の協力が得られることが確認されたことは意味のあることでした。

IEEEからのサポートが得られましたので、Magnetics Societyのジャーナルに論文が掲載されることになっていますが、これもIEEEの実力者であるHarris教授のおかげです。次回は日本で開催したいと提案し、最終日のディナーで再会を誓い合って終了しました。

国際フェライト委員会・委員長
東京工業大学 北本 仁孝

